

QoI 剤耐性イネいもち病菌が確認されています。 いもち病防除の薬剤選択に注意しましょう。

1. 発生状況

H28年に行った QoI 剤耐性菌検定では、県内 18 市町 26 ほ場を調査した結果、1 ほ場で耐性菌が確認されました([H28 速報 No.16](#)、[H28 薬剤感受性検定](#))。H29 年は、県内の発生実態を明らかにするため、さらに地点を増やして、県内 21 市町 86 ほ場を調査しました。その結果、2 市 5 ほ場において、QoI 剤耐性菌が確認されました（表 1、[H29 薬剤感受性検定](#)）。

表1 年次別QoI剤耐性菌検定結果

年次	耐性菌検出*	
	市町数	ほ場数
H27	0/16	0/22
H28	1/18	1/26
H29	2/21	5/86

* 耐性菌検出数/検定数

2. 防除対策

- (1) イネいもち病の防除に当たっては、QoI 剤耐性菌をまん延させないために、薬剤の選定に十分留意しましょう。
- (2) 箱施用は本田散布とくらべて薬剤耐性の発達を助長しやすいと考えられています。箱施用剤には、QoI 剤（嵐及びその混合剤）の使用は避け、それ以外の薬剤を選択しましょう（表 2）。
- (3) 本田防除は、葉いもちに対しては初発前あるいは発生初期に、穂いもちに対しては薬剤の使用適期に散布しましょう。なお、QoI 剤を使用する場合、多発時の使用を避け、使用は最大で年 1 回としましょう（表 3，4）。
- (4) 種子流通にともなう QoI 剤耐性菌の拡大リスクを避けるため、採種ほ場及びその周辺ほ場では QoI 剤を使用しないようにしましょう。
- (5) QoI 剤によるいもち病の防除効果が著しく低い場合は、農業環境指導センター又は農業振興事務所にご相談ください。

表2 イネいもち病に登録のあるQoI剤以外の箱施用剤

有効成分名	FRACコード	商品名の例
プロベナゾール	P2	Dr. オリゼフェルテラ粒剤、Dr. オリゼプリンス粒剤6、ジャッジ箱粒剤、ロングリーチ箱粒剤
チアジニル	P3	アプライフェルテラ粒剤
イソチアニル	P3	エバーゴルワイド箱粒剤、スタウトダントツ箱粒剤、ツインターボ箱粒剤08、ルーチンアドスピノ箱粒剤
イソプロチオラン	6	フジワンフェルテラ粒剤、フジワンプリンス粒剤
トリシクラゾール	16.1	フルサポート箱粒剤

表3 イネいもち病に登録のあるQoI剤以外の本田防除剤

有効成分名	FRACコード	商品名の例
フェリムゾン・フサライド	U14・16.1	ブラシフロアブル、ブラシキラップフロアブル
プロベナゾール	P2	オリゼメート粒剤
カスガマイシン・トリシクラゾール	24・16.1	ダブルカットフロアブル
トルプロカルブ	16.3	ガッツスター粒剤、ゴウケツモンスター粒剤
トリシクラゾール・フェリムゾン	16.1・U14	ノンプラスダントツH粉剤DL
ピロキロン	16.1	コラトップ粒剤5
トリシクラゾール	16.1	ビームエイトスタークルゾル
イソプロチオラン	6	フジワン粒剤

表4 本田におけるイネいもち病に登録のあるQoI剤(最大で年1回使用とする)

有効成分名	FRACコード	商品名の例
アゾキシストロビン	11	アミスター
メトミノストロビン		イモチエース、イモチミン、オリブライト、オリザトップ

※表2～3は、栃木県農作物等病害虫雑草防除指針に記載のある剤

※FRACコードが同一のものは作用点が同じで薬剤耐性の発達を助長しやすいため、連用を避ける

※農薬登録状況は平成29年10月31日時点



図1 葉に発生したいもち病



図2 葉いもちによるずり込み症状

詳細は、農業環境指導センター（TEL 028-626-3086）までお問合せ下さい。

病害虫情報発表のお知らせはツイッター「栃木県農政部(@tochigi_nousei)」、農業環境指導センターホームページ (<http://www.jpnpn.ne.jp/tochigi/index.html>) でもご覧になれます。